

2012年のノーベル医学生理学賞が十月八日に発表され、日本の山中伸弥教授 京都大学 iPS細胞研究所長が受賞されました。又、文化勲章も受けられ誠に喜ばしいことです。生理学賞としましては87年に利根川進教授以来二十五年ぶりの快挙だそうです。山中教授はまだ五十歳の若さですので此れからの研究成果も期待できます。iPS細胞とは人工多機能性幹細胞のことだそうです。患者本人の細胞を使って細胞を初期化し、病魔に侵された細胞と交換できるようになります。実現する日も近いようです。山中教授の素晴らしいのはその生きざまです。国の援助を始め、両親・仲間にも恵まれた事に感謝し、研究仲間がいてくれたからこそ出来た。と言うお話を伺い感動致しました。今後の希望としては研究者が安心して研究に没頭する事ができる環境整備、その理由として **日本の天然資源は限られている、しかし、知的財産は無限に生み出せる、世の為、人の為になれば、それが国力にもなる。**と国は才能の啓発に予算の計上をしていますが、補助金の分野を精査 復興財源の如く使途不明瞭) して、もう少し増額する必要があります。 復興財源の

宗教界にもノーベル賞があればユニークなことです。二千五百年前の釈迦、千三百年前の空海とか八百年前の法然、等々の仏教思想に研究テーマを掲げることばかりではなく、その方々が今の言葉で現実^{じじつ}に説法されたらそれは素晴らしいことではないでしょうか。細胞の再生ではなく過去に実在された人間の再生なんてとても興味をそそります。不可能なことこんな事を言うのは笑止千万とお叱りをうかる事、間違いのないでしょう。とは言っても過去に現存された高僧直々に、お話を聞く事ができたらどんなに嬉しいことでしょう。

中日新聞の記事によれば **三トトが世界で六億人以上、世界には失業中で職探しをしている人間が約二億人、職探しを諦めたひとが約二十億人、自殺する人が約百万人、うつ病の人が約三億五千万人** 想像を絶する数です。この数字からすれば日本はまだまだ仕合せであると言わざるを得まい。あらゆる分野に於いて社会情勢は変わり、発展を遂げていると思っ
ていきましたが、この状態を見ると必ずしも良い結果が出ているとは思われません。日進月歩企業の機械化や I・T化が進めば必ず就労する職域人間の数は減らされる事になります。現社会では人命が延びても健全な生活ができなかったり、病魔に侵され苦しみの中で不安な生活を余儀無くされる事が懸念されます。心身健康な誰もが労働に従事でき、人命の尊厳が守られ、仕合せに暮らせる生活環境が充実し、人間として生まれ、人間として死んでゆく事が出来るように、この社会を構築出来ればノーベル賞以上に価値がある事でしょう。」
先月下北半島にある霊場恐山に詣でました。荒涼とした処に一つ積んでは・・・の塊かたまりがいたるところに点在し、当に靈魂たまの吹きだまりのような感じを私は受けました。